

(試験研究課題年次別解説集様式3号：完了課題用)

アワビ種苗生産のシステム化研究

(予算区分 県単 研究期間 平成14～16年度)

栽培漁業センター

【研究の背景とねらい】

アワビの種苗生産の餌料は、一般に天然海藻が用いられ、安定した種苗生産を行うためには大量の天然海藻の確保が必要です。そのため、近年では配合飼料が利用されるようになってきております。餌料確保、給餌作業の省力化を図るために配合飼料の適正な給餌方法について検討しました。

【研究成果】

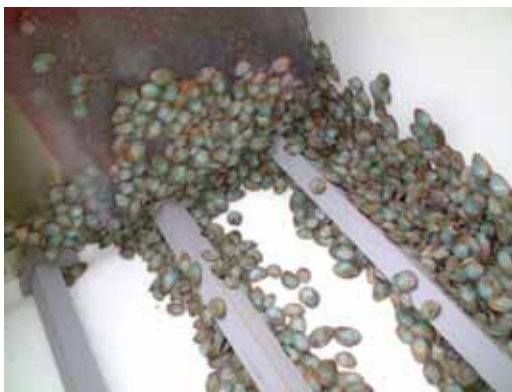
平均殻長16mmの稚貝を使って、量産に使用している4トン飼育水槽を用いての給餌実験を行いました。異なる給餌率で、5日間給餌・2日餌止めという飼育方法で、毎日の摂餌率の変化を調べました。



実験に使った稚貝(クロアワビ、16.9mm)



アワビ用配合飼料



実験中の水槽と稚貝

連続給餌すると飽食給餌では初日約4.5%、2日目2.7%、3日目2.2%、4日目1.6%に減少しました。

餌止めにより摂餌率は回復しましたが、飼育日数の経過とともに給餌再開時の摂餌率が低下する傾向を示しました。

【成果の普及方法】

平成17年度より種苗量産が委託化されるので、その生産システムに組み込まれるよう指導します。

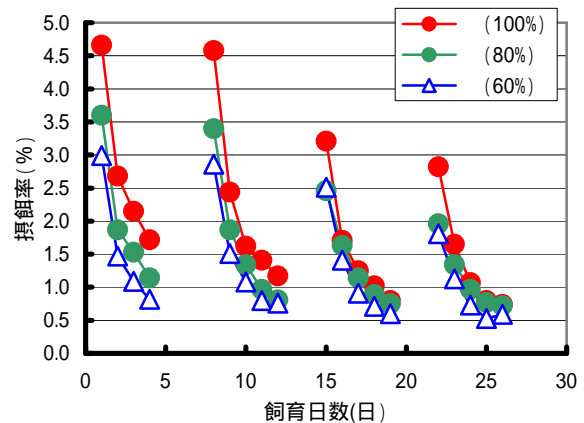


図 摂餌率の変化

(作成 平成17年3月)